

國學院大學學術情報リポジトリ

経済小説における格助詞性複合辞の使用実態に関する考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學大学院文学研究科 公開日: 2025-05-21 キーワード (Ja): 経済小説, 格助詞性複合辞, 地の文, 会話文, 文書 キーワード (En): 作成者: 丁, 文静 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001647

経済小説における格助詞性複合辞の 使用実態に関する考察

A Study on the Usage of Case Particle-like Compound Words in Economic Novels

丁 文 静

キーワード：経済小説 格助詞性複合辞 地の文 会話文 文書

关键词：经济小说 格助词性复合词 叙述文 会话文 文书

要旨

本稿は、経済小説『7つの会議』『破戒者たち』における格助詞性複合辞の使用実態に関する考察を行った。その結果は、両作品に共通して出現していない格助詞性複合辞は「からいえば」「にあって」「につけ(て)」「によったら」「でもって」「からみたら」の6つである。また、両経済小説とも地の文にのみ見られる格助詞性複合辞の方が多い。地の文、会話文とも出現している格助詞性複合辞は「として」「にとって」「について」「に対して」「との」「という」「によって」の7つである。また、格助詞性複合辞融合形については、『7つの会議』では見られないが、『破戒者たち』の会話文により話し言葉的な「っていう」の用例が見られる。「っていう」はビジネス文書や学术论文のような書き言葉には出現しないため、これが小説の会話文の特徴だと言える。さらに、文書における格助詞性複合辞については、一文の中に格助詞性複合辞普通形と丁寧形の両形式が見られる例がある。

摘要

本文对经济小说《七场会议》和《破戒者们》中格助词性复合辞的使用情况进行了考察。研究表明，两部作品中均未出现的格助词性复合辞包括「からいえば」「にあって」「につけ(て)」「によったら」「でもって」「からみたら」这6种。此外，这两部经济小说中，仅出现在叙述部分(地の文)的格助词性复合辞数量多于仅出现在对话部分(会话文)的。同时，叙述部分和对话部分中均出现的格助词性复合辞共有7种，分别为「として」「にとって」「について」「に対して」「との」「という」「によって」。关于格助词性复合辞融合形式，《七场会议》中未见其例，但在《破戒者们》的对话部分中发现了具有口语特征的「っていう」的用例。由于「っていう」不会出现在商业文书或学术论文等书面语中，可以认为这是小说对话部分的独特特征。此外，在文书中使用格助词性复合辞时，也出现了一句中同时包含普通形式和敬体形式的例子。

1. はじめに

格助詞性複合辞は、ビジネス場面で書き言葉、話し言葉ともによく使われる表現の一つである。経済小説においては、会話の中で敬語とともに用いられることも多く、改まった表現の使用も特徴的である。しかし、自然なビジネス会話に触れるチャンスの少ない日本語学習者にとっては、ビジネス会話の教科書だけで実際のビジネス日本語に触れられるとは言えない。本稿では、ビジネスの現場における実際の会話に準ずる資料として、ビジネス会話を反映する経済小説に注目し、経済小説に出現する格助詞性複合辞の全体像、また特徴的な格助詞性複合辞を取り上げ、考察する。

2. 経済小説を調査対象とした先行研究

諸星 (2013) では、「企業・経済小説は、新作が陸続と発表され、作品数は無尽蔵である。企業の多様な場面が描写してあり、ビジネス日本語教材として有益であるといえる」と述べている。諸星 (2021) は、「ビジネス日本語の会話場面における言語資料は、企業秘密・個人情報保護の観点から、現実のビジネス場面で録画・録音して使用することは困難である」とした上でビジネスの現場における会話に準ずる資料として取り上げた経済小説に見られる「テシマイマシタ」を分析している。

劉・徐 (2017) は、「経済小説は様々な角度からビジネス日本語の知識と日本企業に関する知識を提供してくれるため、上級ビジネス日本語総合教材として利用できる可能性が十分あると思われる」と述べている。

3. 調査対象と調査資料

複合辞の定義について、森田・松木 (1989) は、「いくつかの語が複合して、ひとまとまりの形で辞的な機能を果たすものを『複合辞』」と述べている。また、森田・松木 (1989)、松木 (1990) は、意味機能により複合辞を助詞性複合辞と助動詞性複合辞に分類し、助詞性複合辞をさらに係助詞性複合辞、格助詞性複合辞、副助詞性複合辞などに分類している。格助詞性複合辞の下位分類を以下の【表1】

に示す。本研究では、これに基づき、【表1】に示した格助詞性複合辞43種類を調査対象とし、考察を行う。

【表1】意味機能による格助詞性複合辞の分類

(森田・松木(1989), 松木(1990)による)

A	資格・立場・状態・視点	として、をもって、でもって、にとつて、からすると、からすれば、からして、からいうと、からいえば、からいって、からみると、からみれば、からみて、からみたら
B	対象・関連	について、につき、に関して、に対し(て)、をめぐって、にかけて(は・も)、にかけると、にかけても、につけ(て)
C	仕手・仲介・手段・根拠・原因	によって、により、によると、によれば、をもって、でもって、を通して、を通じて、にして、につき
D	時・場所・状況	において、にあって、にあたって、に際し(て)、(の)折に、(の)折から、につけ(て)
E	起点・終点・範囲	からして、をはじめ、に至るまで、にかけて、を通じて、にわたって
F	基準・境界	をもって、でもって
G	対応	によって(は)、により、によつたら、によると、によらず
H	割合	について、につき、に対して
I	同格	との、という、といった、ところの

また、調査対象とする経済小説の概要を以下【表2】にまとめておく。

【表2】調査資料とする経済小説の概要

作品名	作者	発行年	業界	出版情報 ⁽¹⁾	文字数
七つの会議	池井戸潤(男)	2012	中堅メーカー	2016 集英社文庫 2012 日本経済新聞社	236,020
破戒者たち	高杉 良(男)	2012	金融	2014 講談社文庫 2012 講談社	240,293

上の【表2】に示したとおり、本稿で取り上げる作品は、ともに2012年に発行された企業内の出来事を描いた長編経済小説である。作者はそれぞれ、長年銀行、業界紙に勤めた経験があり、日本の職場における言葉遣いに精通している。ビジネス場面に即して使用されている用語が反映されている作品である。また、

(1) 経済小説は、新聞・雑誌への掲載時、単行本、文庫版化するに従って改稿・修正がなされることがある。

経済小説では、社外、社内、上下関係、同僚間の公的、私的会話のような場面が豊富で、企業における様々な場面における発話が具体的に描写され、地の文、会話文、書簡文、また、ビジネスメールなどさまざまな素材があり、現実の日本の職場を描いた作品と言える。

『七つの会議』は、小説家池井戸潤による日本の長編小説である。2011年5月から2012年5月まで『日本経済新聞電子版』に連載され、2012年11月5日に日本経済新聞社より単行本として刊行されている。2013年にNHKでテレビドラマ化、2019年には福澤克雄監督で映画化されている。電機メーカーの東京建電の平凡な社員が巻き込まれていく不祥事を描いたものである。『破戒者たち』は、小説家高杉良による長編小説である。構造改革・金融再生の理念をもって創業された新日産興銀行は、中小企業の救世主として期待されながら、開業からわずか6年で破綻するという内容である。

4. 会話文・地の文における格助詞性複合辞の出現状況

経済小説『七つの会議』『破戒者たち』における会話文、地の文すべての格助詞性複合辞を調査して、異なり語数は、それぞれ23、24という結果を得た。本稿では、地の文、会話文の用例を全て分析の対象とする。作品中には書簡文も見られるが、書簡文に出現する格助詞性複合辞は、ほぼ丁寧形で出現しているため、後節で用例を示す。

以下の【表3】に、『七つの会議』『破戒者たち』ともに出現しない格助詞性複合辞、会話文と地の文に両方出現している格助詞性複合辞、会話文のみ、また、地の文のみに出現している格助詞性複合辞を示す。両作品は銀行、メーカーを舞台とする作品であるが、経済小説には、多様な業界、企業を舞台とする作品であるので、あくまでも2作品における示す状況である。

【表3】を見ると、両経済小説とも出現しない格助詞性複合辞は「からいえば」「にあって」「につけ(て)」「によったら」「でもって」「からみたら」の6つである。また、地の文、会話文とも出現している格助詞性複合辞は「として」「にとって」「について」「に対して」「との」「という」「によって」の7つである。両経済小説とも地の文にのみ見られる格助詞性複合辞の方が多い。そのうち、『七つの会議』では、会話文にのみ見られる格助詞性複合辞は「からみれば」のみである。

【表3】経済小説における格助詞性複合辞の出現状況

	地の文のみ (用例数)	地の文・会話文 両方 (七つの会 議用例数 / 破戒 者たち用例数)	会話文のみ (用例数)	地の文・会 話文ともに 出現しない
七つの会議	「において」(6)「により」(4)「に際 し(て)」(1)「をもって」(2)「からいっ て」(1)「にかけて」(1)「からすると」 (2)「を通じて」(2)「に至るまで」(2) 「にかけると」(2)	「として」(105/ 145)「にとつて」 (44/31)「につい て」(54/55)「に 対して」(21/25) 「との」(3/31)「と いう」(249/91) 「によって」(17/ 16)	「からみれば」(1)	「からい え ば」「にあ つ て」「につ け (て)」「に よ つ た ら」 「でもつ て」 「からみ た ら」
破戒者たち	「において」(6)「により」(6)「に際 し(て)」(2)「をはじめ」(2)「にあた つて」(1)「からみれば」(1)「に 関して」 (1)「につき」(1)「にわたって」(1) 「からすれば」(1)		<u>「をもって」</u> (1) <u>「からいって」</u> (1) <u>「にかけて」</u> (1) 「によれば」(2) 「によると」(2) 「をめぐって」(1)	

「注」下線は『七つの会議』『破戒者たち』ともに地の文に出現している内容を示し、また、波線は、『七つの会議』では地の文にのみ出現して、『破戒者たち』では会話文にのみ出現する格助詞性複合辞を示す。

また「からみれば」は、『破戒者たち』における地の文には1例のみ見られる。「からみれば」の用例では、いずれも漢字表記で、「そっち」「傍」の立場から「くだらないかもしれない」「負け戦が確定している」という判断や推量を表す。以下はその用例である。

(1) そっちから見ればくだらないかも知れないけど、それがオレなんだよ。

(『七つの会議』会話文、坂戸→お母さん p.422)

(2) 傍から見れば、ほぼ負け戦が確定しているにもかかわらず

(『破戒者たち』地の文、p.499)

また、格助詞性複合辞「において」「により」「に際し(て)」は、『七つの会議』『破戒者たち』ともに地の文に出現している(下線で示す)。また、『七つの会議』における地の文に出現している「をもって」「からいって」「にかけて」は、『破戒者たち』においては会話文に出現している(波線で示す)。

(2) () に各項目に出現している格助詞性複合辞の出現頻度(異なり語数)を示す。

『7つの会議』『破戒者たち』とも地の文に「に対して」「という」が多く見られ、会話文には「について」「として」「にとって」が多く出現する。また、「によって」は、『7つの会議』では地の文に多く見られるのに対し、『破戒者たち』では、会話文に多く出現する。以下、『7つの会議』『破戒者たち』とも会話文と地の文の両方に出現している格助詞性複合辞を考察する⁽³⁾。

5. 会話文・地の文の両方に出現する格助詞性複合辞

格助詞性複合辞は新聞、ビジネス文書のような改まった場面で多く使われるが、日本語学習者にとっては職場会話、学会発表などのような場面から収集したデータを集めるコーパス以外、会話文に出現する格助詞性複合辞に触れる機会は少ない。本節では、地の文と会話文に共通して現れる形式を取り上げ、会話文の用例を注目し考察する。

5.1 「として」と「にとって」

格助詞性複合辞「として」「にとって」は、ともに「資格・立場・状態・視点」を表す。『7つの会議』では、「として」は地の文に62例、会話文に26例、「にとって」は地の文に28例、会話文に10例見られる。『破戒者たち』では、「として」は地の文に46例、会話文に60例、「にとって」は地の文に12例、会話文に13例見られる。

そのうち、『7つの会議』における「にとって」の地の文の用例には、書簡文1例が見られる。以下に示す。

- (3) 「今回の大型受注は、当社にとって必須のもので、まさに興廃を賭しているといっても過言ではありません。是非とも、御社のご協力をいただきたく、よろしく申し上げます。」

(『7つの会議』p.479, 宮野(社長)→江木(トーメイテック社長)(メール))

(3) 本稿では、連用形を考察対象とし、中止形「に対し」、「に関し」、連体用法「に対する」「に關する」、接続表現「のに対し(て)」「それに対し(て)」、また「について(は・も)」「に対して(は・も)」「にとって(は・も)」「に関して(は・も)」は考察対象外とする。

書簡文は敬体で書かれるのが普通なので格助詞性複合辞も丁寧形になる例が多いが、用例(3)は丁寧形が使用されていない。「にとって」によって「当社」という枠組みを設定し、「今回の大型受注」を枠組みに当てはめると、「必須のもの」ということが受け手の立場からの結論となる。「として」と違い、全体的な評価の観点から話し手の意識をもとに評価、判断、提言するより、受けての立場から考えるとどうだろうかという思考が表されている。

「として」について、森田・松木(1989)は、「通常資格・立場・名目・部類を表し、上接語に何らかの意味や価値付けをする表現である」とし、国立国語研究所(2001)では、「問題にする人・物事などの位置づけを示す。どのような位置づけかで、資格・立場・部類・行為の意義づけなどを表わすと下位区分される」と述べている。「にとって」について、森田・松木(1989)は、「受け手としての立場・視点を表す意識が強いと言えよう」と述べている。また、国立国語研究所(2001)では、「『AにとってB』という形で文の内容を規定する形で用いられ、『AにとってB』が係っていく文の内容として述べられる個別的な判断・とらえ方をする主体を表す」としている。

『7つの会議』『破戒者たち』の地の文、会話文における「として」の用例では、以下のように、前に示される内容には「ヒト」(後任)「人に準ずる集団」(金融庁)が見られる。

(4)「坂戸の後任として、一課をやってもらいたい」

(『7つの会議』p.31, 北川(営業部長)→原島(営業二課課長))

(5)「金融庁としてどうしても指摘しなければならない性質のものでもありませんので、その点は結構です。」

(『破戒者たち』p.379, 大山(主任検察官)→大塚(Mファイナンス執行役員企画部長))

上の用例(4)は、前の営業1課の課長の代わりに、1課を任せるという結論を営業2課課長に告知する場面である。「坂戸の後任」という観点を導入し、話し手側は、坂戸の後任としてやるべきこと、あるべき姿という規範意識はすでに持っている。それに合わせて、その後任に「一課をやってもらおう」という価値付け、意味付けを行っている。話者から意識的に全体に対する評価の観点を導入する、また、評価の背後には「坂戸の後任ならこのくらいのことはやってもらおう」とい

う話し手の意志が動いている。

また、以下の用例のように、「として」の前に出現している内容には「出来事」(落ちる)「視点・立場」(改善点、ご意見)なども見られる。それは、前に出現している内容が持つ複数の側面の中から1つの役割に着目し、それを取り出し、立場、資格、名目などをはっきりと示している。

(6)「特に営業態度に関するものが増加している傾向にございまして、改善点としてご報告申し上げる次第です。」

(『7つの会議』p.256, 佐野(カスタマー室長)→連絡会議参加者))

(7)「平田さんのご意見はご意見として承っております」尾花の胸中は揺れに揺れていた。俺を除いて誰がいるのかとの思いもある。しかし、越智が頭を下げて頼むと言ってこない限り受けるのは体面が許さないとの思いが勝っていた。

(『破戒者たち』p.213, 尾花(新日産興銀行社長)→平田(東京JC理事長))

用例(7)では、話者から「平田さんのご意見」をどう考えるかを判断するにあたり、「ご意見」という観点を導入している。話し手には「ご意見は本来どうであるべきか」という規範意識があり、それに照らして、平田さんのご意見に「ご意見」という価値付け・提言を述べたり、全体に対する評価の観点を導入したり、また、評価の背後には平田さんのご意見ならご意見という観点から一応承っておくと表現するだけで話者には「ご意見」を受け入れる意志はない。とはいえ、発言者のメンツを潰して「ご意見」を言下に否定するのではなく、「一応意見を聞くだけは聞いた」というポーズを見せる時に使う表現⁽⁴⁾である。

このような表現は国会会議録でもよく見られる。BCCWJ特定目的・国会会議録から以下の用例(8)(9)(10)(11)のような用例がある。「相手のお話は確かにかがいました」と言及してはいるが、後ろに接続助詞「が」「けれども」をともなって、お返事は保留として、あるいは別の考えがすでにあるので、聞くだけは聞いたという意味で使われている。また、このような用例では、上接語となる名

(4) 管見の限りでは先行研究にこれに関する記述は見られないが、日本語母語話者である社会人からの情報による。

詞は「ご意見」「ご指摘」ぐらいで、ほかにはあまりない。「ご意見は」を省略して「ご意見として承っております。」ともいう。会議録にする時は、「という意見も出された。」と記録する程度であり、「という意見が了承された」と書くことはない。このようなビジネス場面、会議によく見られる用語は、日本語学習者にとっては馴染みのない形式であるため、提示すれば日本語学習者にとっては有益である。

- (8) (前略)当然別の医師に診断を求めるということも検討すべきであろうと思います。御意見は御意見として十分拝聴いたしました。

(特定目的・国会会議録OM12_00001 363830)

- (9) 政府委員(兵藤長雄君) 御意見は御意見として拝聴いたしますが、サンフランシスコ平和条約で既に日本はここを放棄いたしておるわけでございます。

(特定目的・国会会議録OM45_00001 620560)

- (10) 国務大臣(中村正三郎君) まさにその事実認定手続のところの審議をしているわけでございまして、今、委員の御意見は御意見として伺って、この中にも法制審議会にメンバーで出ている人がおりますので、それでこれは前大臣が法制審議会に諮問しておりますので、そういう中で、当然議員のような御意見があったということは皆頭に入れて審議にかかると思います。

(特定目的・国会会議録OM55_00004 437010)

- (11) 委員の御意見は御意見として承りますけれども、現実問題としてはいろいろ問題があるようでございまして(後略)。

(特定目的・国会会議録OM55_00004 429850)

『7つの会議』『破戒者たち』の会話文における格助詞性複合辞「にとって」の前に示される内容は、「人に準ずる集団」「人」が多く見られる。以下の用例(12)では、「会社の視点で必要な人間」はいないという個人の意見が見られる。また用例(13)では、「越智社長の立場で不都合なこと」はないかと質問している。

- (12) 「会社にとって必要な人間なんかいません。辞めれば、代わりに務める誰かが出てくる。組織ってそういうもんじゃないですか。」

(『7つの会議』p.40, 坂戸(営業1課課長)→原島(営業2課課長))

- (13) 「率直にお尋ねしますが、越智社長にとって不都合なことはありませんか。手が後ろに回るような……」

(『破戒者たち』p.117, 大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長) →
倉田 (オラガ取締役))

また、以下の用例 (10) のように、「免許取得」のような出来事も格助詞性複合辞「にとって」の直前に現れ、後に「不可欠なことは確か」という主観的意見が続く。

(14) 「新銀行の免許取得にとって不可欠なことは確かです。」

(『破戒者たち』p.60, 大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長) →
倉田 (オラガ取締役))

森田・松木 (1989) では、「[にとっては]」の会話体として「にとっちゃ」がある」と述べている。融合形⁽⁵⁾「にとっちゃ」は、本稿での調査では見られない。BCCWJ、国立国語図書館デジタルコレクションで検索すると、格助詞性複合辞的な用法は以下の用例 (11) (12) のような例が67例見られる。また、国立国会図書館デジタルコレクションで検索できる最も古い用例は現時点では以下の例 (13) である。

(15) あの人にとっちゃ夢と同じだろう。

(図書館・書籍, LBk9_00203 27970, 『死がやさしく笑っても』(1996)
北方謙三 (著), 波崎→田村)

(16) 客にとっちゃあ迷惑ですよ。

(図書館・書籍, LBb9_00026 40710, 『紀州ミステリー傑作選』(1987)
笹沢左保 (著), 中津川→勝次)

(17) 地獄の様な所の方が僕にとっちゃ天国だらうよ。

(『草雲雀』明治40 (1907) 森田草平・生田長江・川下江村 (著), 一郎→澄, p.150)

5.2 「について」と「に対して」

本稿の調査では、『7つの会議』における、「について」は地の文に28例、会話文に11例、「に対して」は地の文に10例、会話文に2例見られる。『破戒者たち』における、「について」は地の文に12例、会話文に16例、「に対して」は地の文に

(5) 森田・松木 (1989) が「会話体」を使用しているとしても、「にとっては」を会話で使用することもあるので、本稿では「融合形」という用語を使う。

11例、会話文に10例見られる。

まず、『7つの会議』『破戒者たち』における会話文では対象を表す内容が見られる。「に対して」の前に「人に準ずる集団」「(「トーマイテック」「御社)」(用例14、15)、「人」「(「パートナー」「旧自動車工業出身者)」(用例16、17)、述部に「発注する」「申し入れる」「失礼な話」「持っている」が見られ、対象に何らかの行動、言語活動、対処、感情を示し、さらに心理的な作用を及ぼす内容も見られる。以下にその用例を示す。

(18)「トーマイテックに対して現段階で発注していませんでしたので。」

(『7つの会議』p.221, 新田(経理課課長代表)→加茂田(経理課長))

(19)「御社に対して、新規で取引をさせてくれと申し入れていたのは事実です。」

(『7つの会議』p.463, 八角(営業1課係長)→江木(取引先トーマイテック社長))

(20)「パートナーに対して失礼な話ですね。」

(『破戒者たち』p.152, 平田(東京JC理事長)→越智(新産興銀摂理準備委員長))

(21)「旧自動車工業出身者に対してコンプレックスを持っていたような気がします。」

(『破戒者たち』p.338, 大塚(Mファイナンス執行役員企画部長)→北原(新東京銀行執行役員・企画部長))

横田(2006)では、「に対して」は「対比、照応、割合、位置」の用法があると述べている。本稿の調査では、上のような人の行為と態度の対象、また、ものが反応する時の対象を示す使い方以外、以下のように「対比」用法が見られる。

(22) 誰もが一目置く出来のいい兄に対して、物足りない弟。

(『7つの会議』p.14)

(23)「総資産七五〇〇億円に対して自己資本は二七〇〇億円もあります。」

(『破戒者たち』p.460, 宮本(新口産業銀行常務・企画担当)→大塚(Mファイナンス執行役員企画部長))

「について」について、国立国語研究所(2001)は、「言語・思考行動の対象・内容や、検討・判定・評価がなされる観点・指標を示す」と述べている。以下の用例(20)(21)では、思考行動の対象・言語を表す。

(24) ただ、いままで「製品」のクレームについてばかり考えていたので、「サービ

ス」のクレームというものもあったなど、目先が切り替わった新鮮さを感じただけだ。 (『7つの会議』p.252)

- (25) 先日の連絡会議で、佐野は、折りたたみ椅子の事故について報告していた。 (『7つの会議』p.316)

また、森田・松本(1989)は、「「については」の会話体として「についちゃ」も使われている」と述べている。「については」の融合形「についちゃ」をBCCWJで検索すると、格助詞性複合辞的な用法は16例見られる。本稿の調査では見られない。以下はBCCWJで検索した用例を示す。

- (26) 風間兵曹の名誉の負傷についちゃあ、村中、知らない者はおりませんよ。
(BCCWJ・図書館・書籍, LBg9_00046, 『ラバウル烈風空戦録』(1992)
川又千秋(著) 世話役→村長, 私)

- (27) 浮気の件についちゃ、トムはなんにも言わなかった」
(BCCWJ・出版・書籍, PB29_00730, 『クッキング・ママの超推理』(2002)
ダイアン・デヴィッドソン(著)/加藤洋子(訳), ジュリアン→わたし)

5.3「という」と「との」

格助詞性複合辞「という」「との」はいずれも同格を表す。『7つの会議』では、「という」は地の文に192例、会話文に57例、「との」は地の文に2例、会話文に1例見られる。『破戒者たち』では、「という」は地の文に42例、会話文に49例、「との」は地の文に25例、会話文に6例見られる。

国立国語研究所(2001)は、「「AというN」と連体修飾に用いられて、Nの具体的な内実を示す同格的な関係を形成するのが基本である。「AとのN」も同様だが、用法に制約がある」と述べている。

- (28) 「うちの営業の人間のマナーが悪いというクレームです」顧客から届いた封書の文面に目を通しながら小西がいった。 (『7つの会議』p.253)
- (29) 以後、大日商工ファンドと新産興銀のドロ仕合が延々と続く。新産興銀は公表文で、「自身の業績には何ら影響がない」との強弁を繰り返した。 (『破戒者たち』p.494)

本稿の調査では、『7つの会議』では見られないが、『破戒者たち』の会話文によ

り話し言葉的な「っていう」の用例が見られる。「っていう」はビジネス文書や学術論文のような書き言葉には出現しないため⁽⁶⁾、これが小説の会話文の特徴だと言える。

以下の用例では、全体では丁寧体だが格助詞性複合辞「という」ではなく、「っていう」を使っている。

(30) 「わたしを陥れようっていう魂胆ですか。」

(『破戒者たち』p.182, 大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長) →
越智 (新産興銀摂理準備委員長))

(31) 「大塚さんもわたしも、お互いさまっていう面がありますね。」

(『破戒者たち』p.123, 倉田 (オラガ取締役) →
大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長))

(32) 「俺にカネ集めの汚れ役をやらせようっていう魂胆なのか。」

(『破戒者たち』p.171, 大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長) →
村木 (Mファイナンス社長))

(33) 「坂戸のほうから持ちかけたっていう証拠、あるんなら見せてくれ。」

(『7つの会議』p.461, 八角 (営業一課係長) →江木 (トーメテック社長))

6. 会話文における格助詞性複合辞丁寧形

本稿の調査では、格助詞性複合辞丁寧形は、『7つの会議』に見られないが、『破戒者たち』の会話文には見られる。「について」の丁寧形「につきまして」の会話文の用例が以下の用例 (26) (27) である。用例 (27) は、新産興銀摂理準備委員長越智による記者会見の場面における発言である。用例 (28) では、Mファイナンス社長村が新産興銀摂理準備委員長越智との会談で説得をしている。

(34) 「貸し出しににつきまして年三%から一五%の金利帯を考えております。」

(『破戒者たち』会話文、p.11、越智 (新産興銀摂理準備委員長) →記者会見)

(35) その点につきましては、先日も申し上げましたが、不信感を拭えません。

(『破戒者たち』p.240, 村木 (Mファイナンス社長) →
越智 (新産興銀摂理準備委員長))

(6) 丁 (2023a) 丁 (2023b) による。

『破戒者たち』では、格助詞性複合辞「として」「にとって」の丁寧形「としまして」「にとりまして」の用例も見られる。以下用例を示す。

- (36) 当行としましては、このように盤石な保全措置を講じておりますが。
(『破戒者たち』p.494, 公表文)
- (37) 「村木先生にとりましても、越智にしても全く同じ心境だと思います」
(『破戒者たち』p.20, 大塚 (Mファイナンス執行役員企画部長) → 倉田 (オラガ取締役))

『破戒者たち』に格助詞性複合辞丁寧形「に際しまして」の用例も見られる。以下用例を示す。

- (38) 「繰り返しますが資金調達に際しまして定期預金の金利を通常より高めに設定する所存でございます。」
(『破戒者たち』会話文, p.11. 越智 (新産興銀摂理準備委員長) → 平田 (東京JC理事長))

本節では、経済小説における会話文を対象として、格助詞性複合辞丁寧形の使用状況について考察したが、経済小説は創作であるのに対して、現実の職場での自然な会話が収録されているデータである中納言「現日研・職場談話コーパス」(以下CWPC)⁽⁷⁾においても、以下のような用例が見られる。「につきまして」は、

- (39) 「編集関係につきましてはあの一、え一会長で代行しておりました。」
(女性, 会議打ち合わせ, 書籍編集課長F06K011)

の1例が見られ、「としまして」は、

- (40) 「大まかな内訳としましては一、え一業務用消耗品で、え一、私製の領収証を印刷いたしまして。」
(M08K011, 報告会議, 支配人)

の13例が見られる。

(7) 短単位語彙素で検索した。以下同。

7. 文書における格助詞性複合辞

『7つの会議』『破戒者たち』には、銀行のホームページに掲載された文、説明文案、公表文のような書簡文において、「について」「に対して」の用例が見られる。

(41) 大日商工ファンド株式会社が当行に対して負担した保証債務につき。

(『破戒者たち』p.486,担保権行使通知書)

(42) 当行は大日商工ファンド株式会社に対して、直接貸し出しを行っておりません。

(『破戒者たち』p.493,新産興銀のホームページに掲載された文章)

(43) 「社内ドーナツ販売についてのご提案」と題した企画書を優衣がまとめたのは。」

(『7つの会議』p.125, 企画書の題目)

(44) 『平成一八年度決算について』という公表文で、冒頭部分を枠で囲み。

(『破戒者たち』p.428,公表文)

(45) 資料の表題には、“シーシーネットファイナンスとの業務提携について”とある。

(『破戒者たち』p.432, 資料の表題)

(46) 取締役会の認識について説明すること。

(『破戒者たち』p.441, 質問状)

『破戒者たち』の書簡文では、一文の中に格助詞性複合辞普通形と丁寧形の両形式が見られる例がある。用例(39)(40)(41)では、「に対して」「として」「について」とともに「につきまして」「に関しまして」「におきまして」が見られる。1文に複数の格助詞性複合辞の丁寧形を使うことは慇懃無礼、必要以上に長すぎる感覚があるため、あえて格助詞性複合辞普通形を使っていると思われる。

(47) 本日、大日商工ファンド株式会社は、東京地方裁判所に対して、民事再生法に基づく民事再生手続開始の申し立てを行ったという事実を公表しており、負債総額につきましては、三三八〇億円強と報じられております。

(『破戒者たち』, 銀行のホームページに掲載された文, p.492)

(48) 取締役会として組織の動揺を事前に防止できなかったことは遺憾ではありますが、今回の件につきましては、外部からの示唆に煽られた一部の執行役が。

(『破戒者たち』説明文案, p.442)

(49) 当行におきましても一部、大日商工ファンド株式会社との取引を行っておりますので、現時点における影響についてご報告申し上げます。

(『破戒者たち』p.494,公表文)

まとめと今後の課題

本稿は、経済小説『7つの会議』『破戒者たち』における格助詞性複合辞の使用実態に関する考察を行った。両作品に共通して出現していない格助詞性複合辞、会話文と地の文両方に出現している格助詞性複合辞が見られる。地の文、会話文ともに出現する格助詞性複合辞に注目し、考察を行った。経済小説の会話文は実際のビジネス現場における言語と相違する可能性もあるが、これに準ずる言語資料として考察することで、ある程度ビジネス現場における格助詞性複合辞の使用実態を把握することができ、上級ビジネス日本語教材として有益な情報を提供できると考える。しかし、作者によっては格助詞性複合辞の使い方に多少違いがあるため、今後は、他の経済小説との比較も行いたい。また、経済小説の会話文における格助詞性複合辞の使用状況の変遷も今後の課題である。

参考文献

- 国立国語研究所 (2001) 『現代語複合辞用例集』
- 坂井厚子 (1992) 「「について」「に対して」の意味・用法をめぐって」『信州大学教養部紀要』26, pp.139-152
- 丁文静 (2023a) 「学術論文における格助詞性複合辞の使用実態に関する一考察」『東アジア文化研究』第8号, pp.311-326
- 丁文静 (2023b) 「『國學院大大学院. 文学研究科紀要』」54号, pp.63-81
- 松木正恵 (1990) 「複合辞の認定基準・尺度設定の試み」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』p.27-51
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型』アルク株式会社
- 諸星美智直 (2013) 「ビジネス日本語教材としての経済小説」『国学院大学日本語教育研究』4号, 国学院大学日本語教育研究会, pp.1-16
- 諸星美智直 (2021) 「ビジネス日本語における複合辞テシマイマシタについて」『国学院大学日本語教育研究』12号, pp.1-15
- 劉小俊, 徐鵬 (2017) 「日本経済小説がビジネス日本語教材としての可能性：中国における上級総合教材の場合」『京都女子大学人文論叢』65号, 京都女子大学人文学会, pp.1-19
- 横田淳子 (2006) 「「に対して」の意味と用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』32号, pp.19-31